

《履修上の留意事項》* 内科学の受講にあたり、教務部長より伝えられた注意事項を厳守すること。

1. 遅刻をしないこと。
2. 講義中は私語を慎むこと。
3. 机の上には講義と関係のないものは一切おかないこと。
4. 授業の順序や担当者に変更のある場合には事前に通知する。
5. 数回分のプリントをまとめて配布する場合があるので、忘れずに持参すること。

《担当者名》 太田 亨 ohta@hoku-iryo-u.ac.jp
 高橋 伸彦 (歯学部教授 ntkhs@hoku-iryo-u.ac.jp)
 大村 一将 (歯学部准教授 kohmura@hoku-iryo-u.ac.jp)

【概要】

内科疾患の系統分類に従い、解剖学、生理学、生化学および薬理学の関連事項をふまえ、総論・各論と講義を進める。理学療法および作業療法で最低限必要な内科疾患の病理的背景や概念、および内科的治療による影響などを解説すると共に、一般的医学知識としての内科学、特に生活習慣病について重点的に講義を行う。

【学修目標】

一般目標：

全身疾患に罹患した患者が安心して理学療法を受けられるよう、内科疾患の病態および症状、診断、検査、治療に関する知識を身につける。

行動目標：

内科疾患の病態・症状、疫学、診断・検査、治療法、予後について説明できる。
 内科疾患に関わりのある身体的障害について理解し説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	内科学総論	医学における内科学の意義について学ぶ。 内科疾患の病因と分類について説明できる。 内科診断のながれ：患者さんの訴えから検査、診断、治療について学ぶ。 臨床検査の概略について学ぶ。 生体機能検査について説明できる。 検体検査について説明できる。 画像検査（X線単純撮影、造影検査、超音波検査、CT検査、MRI検査、核医学検査、PET検査）について説明できる。 患者さんの診かた：診察方法について学ぶ。	太田 亨
2	循環器疾患（1）	心臓大血管の解剖と生理を学ぶ。 大循環、小循環、心臓弁、刺激伝導系 心不全、血圧および虚血性心疾患について学ぶ。 1) 心不全 2) 高血圧 3) 心内膜炎 4) 虚血性心疾患 狭心症、心筋梗塞 心電図の基礎を理解する。 主要症候について学ぶ。 貧血、浮腫、黄疸、胸痛、意識障害など	太田 亨
3	循環器疾患（2）	先天性および後天性の心臓異常を学ぶ。 1) 先天性心疾患 心房中隔欠損症、ファロー4徴症 2) 後天性心疾患 心臓弁膜症 不整脈および大血管の異常を学ぶ。 1) 不整脈と心電図 2) 大動脈炎症候群	太田 亨

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		3) 深部静脈血栓症	
4	呼吸器疾患(1)	呼吸器系の解剖および生理を学ぶ。 呼吸機能検査(スパイロメトリ、フローボリューム曲線)を理解する。 主要症候と病態生理を学ぶ。 感染性肺疾患(肺炎、肺結核など)について学ぶ。 慢性閉塞性肺疾患の病態、症状、呼吸機能検査、画像検査、治療について学ぶ。 気管支喘息の病態、症状について学ぶ。 拘束性肺疾患の原因、病態などについて学ぶ。	太田 亨
5	呼吸器疾患(2)	原発性肺癌(合併症含む)について学ぶ。 肺循環障害(肺血栓塞栓症)について学ぶ。 胸膜・横隔膜の疾患について学ぶ。 睡眠時無呼吸症候群の分類、病態、症状、治療について学ぶ。 呼吸不全の分類、病態などについて学ぶ。	太田 亨
6	消化器疾患(1) (消化管疾患1)	消化管の解剖および生理について学ぶ。 主要症候(特に吐血と下血)と病態生理について学ぶ。 胃食道逆流症、食道アカラシアについて学ぶ。 食道静脈瘤の原因(肝硬変、門脈圧亢進症)や病態について学ぶ。	太田 亨
7	消化器疾患(2) (消化管疾患2)	胃・十二指腸潰瘍の成因や症状について学ぶ。 腸閉塞の病態、症状について学ぶ。 虚血性腸炎の病態、症状について学ぶ。 腸重積の病態、症状について学ぶ。 虚血性腸炎の病態、症状について学ぶ。 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎とクローン病)の病態、症状について学ぶ。 消化器癌(食道癌、胃癌、大腸癌)の特徴について学ぶ。	太田 亨
8	消化器疾患(3) (肝胆膵疾患1)	肝胆膵領域の解剖生理について学ぶ。 肝胆膵領域の主要症候と病態生理について学ぶ。 検査法(特に生化学検査)について学ぶ。 急性肝炎、劇症肝炎、慢性肝炎について学ぶ。 ウイルス性肝炎(特にA型)の特徴について学ぶ。	太田 亨
9	消化器疾患(4) (肝胆膵疾患2)	ウイルス性肝炎(特にB型、C型肝炎)の特徴について学ぶ。 薬剤性肝障害の原因薬剤、病態について学ぶ。 アルコール性肝障害の症状について学ぶ。 肝硬変の成因、病態、合併症(門脈圧亢進症を含めて)、症状、検査異常について学ぶ。 肝癌について学ぶ。 胆石症、胆嚢炎、胆嚢癌について学ぶ。 膵炎、膵癌について学ぶ。	太田 亨
10	血液・造血器疾患	血液細胞の発生と役割を学ぶ。 1) 造血器と血液細胞の種類 2) 血液細胞の働き 血液細胞異常について理解する。 1) 赤血球異常 貧血、多血症 2) 白血球異常 好中球減少症 白血病、悪性リンパ腫 多発性骨髄腫	太田 亨
11	出血性疾患・血栓性疾患	出血凝固異常を示す疾患について学ぶ。 1) 出血性素因の原因 ・血管壁の異常、血液成分の異常、血小板異常の概念を学ぶ。	太田 亨

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<p>2) 血小板の異常</p> <ul style="list-style-type: none"> ・免疫性血小板減少症、血小板無力症の概念を理解する。 <p>3) 凝固因子の異常</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血友病、von Willebrand病を理解し、鑑別できるようにする。 ・血友病に伴う関節障害の予防を学ぶ。 ・血栓性素因について理解する。 ・先天性血栓性素因、後天性血栓性素因など 	
12	代謝疾患(1)	<p>三大栄養素の代謝調節の仕組みについて学ぶ。</p> <p>糖尿病の定義、病型、診断、検査、合併症(特に神経障害)、治療について学ぶ。</p> <p>低血糖症の原因、症状、対処法について学ぶ。</p>	高橋 伸彦
13	代謝疾患(2)	<p>脂質異常症の病態について学ぶ。</p> <p>メタボリックシンドロームの概念について学ぶ。</p> <p>高尿酸血症と痛風について学ぶ。</p> <p>骨粗鬆症と骨軟化症、くる病について、病態、検査、治療について学ぶ。</p> <p>ビタミン欠乏症と過剰症の症状について学ぶ。</p>	高橋 伸彦
14	内分泌疾患(1)	<p>内分泌系とホルモンについて学ぶ。</p> <p>下垂体疾患(先端巨大症、尿崩症など)の病態、症状について学ぶ。</p> <p>甲状腺疾患(バゼドウ病、橋本病など)の病態、症状について学ぶ。</p>	高橋 伸彦
15	内分泌疾患(2)	<p>副甲状腺疾患(原発性副甲状腺機能亢進症ほか)の病態、症状について学ぶ。</p> <p>副腎疾患(原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫、アジソン病など)の病態、症状について学ぶ。</p>	高橋 伸彦
16	腎・泌尿器疾患(1) 酸塩基平衡	<p>腎・泌尿器の解剖生理、主要症候と病態生理、検査について理解する。</p> <p>急性腎不全、慢性腎不全の病態、分類、症状について学ぶ。</p> <p>腎代替療法(透析)について理解する。</p>	太田 亨
17	腎・泌尿器疾患(2) 酸塩基平衡	<p>糸球体疾患(急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群など)について病態、原因を学ぶ。</p> <p>全身性疾患による腎障害(糖尿病腎症、腎硬化症など)について学ぶ。</p> <p>泌尿器疾患(腎盂腎炎、前立腺肥大症、神経因性膀胱など)について学ぶ。</p> <p>腎における水・電解質代謝について理解し、その異常について学ぶ。</p> <p>腎における酸塩基平衡の生理学について理解し、その異常について学ぶ。</p>	太田 亨
18	免疫・アレルギー・膠原病疾患 (1) アレルギー疾患・免疫異常症	<p>アレルギーの種類と機序について学ぶ。</p> <p>アレルギーの検査法について学ぶ。</p> <p>アレルギー反応により発症する疾患の概要について学ぶ(アレルギー性鼻炎・花粉症、アトピー性皮膚炎、薬物アレルギー、金属アレルギーなど)。</p> <p>アナフィラキシーの症状と臨床経過について学ぶ。</p> <p>免疫機序と免疫異常症について学ぶ。</p>	大村 一将
19	免疫・アレルギー・膠原病疾患 (2) 膠原病および膠原病類縁疾患	<p>膠原病およびその類似疾患の定義および病態について学ぶ。</p> <p>自己免疫疾患でみられる全身症状(皮膚、粘膜、関節、眼、耳、鼻、筋肉、神経、循環器、呼吸器、腎)について学ぶ。</p> <p>診断に結びつく血液検査、画像検査、組織生検検査について学ぶ。</p> <p>自己免疫疾患に特異的な自己抗体および疾患標識と</p>	大村 一将

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		なる検査項目について学ぶ。 運動器障害を合併しやすい膠原病患者におけるリハビリテーション上の留意点について学ぶ。 副腎皮質ステロイドおよび免疫抑制薬を服用中の膠原病患者におけるリハビリテーション上の留意点を学ぶ。 関節リウマチの病態、症状、検査所見、画像所見、治療について学ぶ。	
20	免疫・アレルギー・膠原病疾患 (3) 膠原病および膠原病類縁疾患	全身性エリテマトーデスの病態、症状について学ぶ。 皮膚筋炎/多発性筋炎の病態、症状、合併症について学ぶ。 強皮症の病態、症状、合併症について学ぶ。 シェーグレン症候群、血管炎症候群、混合性結合組織病、ベーチェット病および膠原病類縁疾患の各疾患の病態、症状について学ぶ。	大村 一将
21	感染症疾患	感染症の種類と治療法を学ぶ。 1) 総論：感染の定義、感染症の種類を理解する。 2) 感染症の検査：感染症の診断や治療効果判定に用いられる臨床検査を学ぶ。 3) 感染症各論 ・細菌感染：結核、溶連菌感染症などの概念を理解する。 ・ウイルス感染：麻疹、風疹などの概念を理解する。 4) 感染症の予防と治療 ・感染症の予防：ワクチン接種の種類と効果を理解する。 ・感染症の治療：薬剤の効果およびその判断方法を理解する。	太田 亨
22	中毒、小まとめ	さまざまな中毒について学ぶ。 1) 総論：急性中毒・慢性中毒について理解し、主要症候を知る。 2) 各論：薬物中毒、アルコール中毒、ニコチン中毒、工業毒中毒、農薬中毒、食中毒について原因と症候を学ぶ。 担当講義の小まとめ・補足	太田 亨
23	症候学、まとめ	主要症候について説明できる。 貧血、浮腫、黄疸、胸痛、意識障害など 内科学のまとめ	太田 亨

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験100%

【教科書】

浅野嘉延 編著 「なるほどなっとく！内科学 改訂2版」 南山堂 2020年

その他：その都度、プリントを配布する

【参考書】

「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版」 前田真治 他 編 医学書院 2020年

「わかりやすい内科学（第5版）」 井村裕夫 編集 文光堂 2023年

「内科学（第12版）」 矢崎義雄・小室一成 総編集 朝倉書店 2022年

【備考】

Google FormやManabaを活用し、資料配布や授業時間中にその場で学生の理解度を把握する。

【学修の準備】

1. 教科書を事前に読み、予習した上で講義に臨むこと（80分）。最低限、どのような疾患を学ぶかを理解すること。
2. 前回の講義で学んだことを復習しておくこと（80分）。
予習・復習に最低1時間は必要である。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

（DP4）関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

【実務経験】

太田 亨（医師）、高橋 伸彦（医師）、大村 一将（医師）

【実務経験を活かした教育内容】

医師として医療機関での実務経験を活かし、症状から診断・治療に向かう流れや、実臨床における疾患の診かたや注意点について、診療に携わる際に役立つ講義を行う。